

令和 7 年度名古屋市教育委員会議案第 7 号

名古屋市指定有形文化財の指定について

名古屋市文化財の保存及び活用に関する条例（昭和47年名古屋市条例第 4 号）第 2 条第 1 項の規定により、下記の文化財を名古屋市指定有形文化財に指定する。

記

1 名古屋市指定有形文化財に指定するもの

種 別	名 称	員 数	所在地	所有者
絵画	板絵著色杉戸絵 鶴図・芍薬図	2 枚 4 面	名古屋市千種区城山町 1 丁目 47 番地	相應寺 代表役員 前野 真成
	享元絵巻	1 巻	名古屋市中区三の丸 三丁目 1 番 1 号	名古屋市長 広沢 一郎
古文書	酒井家文書	58点		

2 指定日（名古屋市文化財の保存及び活用に関する条例第 2 条第 5 項）

令和 7 年 8 月 12 日

3 今回指定されますと名古屋市指定文化財の総数は 142 件、うち絵画は 21 件、古文書は 1 件になります。

（令和 7 年 8 月 8 日提出 生涯学習部文化財保護課）

令和 7 年 7 月 30 日

名古屋市教育委員会 様

名古屋市文化財調査委員会

委員長 鬼頭 秀明

名古屋市指定有形文化財の指定について(答申)

名古屋市文化財調査委員会に対して名古屋市文化財の保存及び活用に関する条例
第 2 条第 4 項の規定により諮問のあった名古屋市指定文化財の指定について調査審
議の結果、下記のとおり答申します。

記

1 名古屋市指定有形文化財の指定を可とするもの

種 類	名 称	員数	所 有 者 (申請者)
絵画	板絵著色杉戸絵 鶴図・芍薬図	2 枚 4 面	名古屋市千種区城山町 1 丁目 47 番地 相應寺 代表役員 前野 真成
絵画	享元絵巻	1 巻	名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号 名古屋市長 広沢 一郎
古文書	酒井家文書	58 点	同上

名古屋市指定文化財答申書

1 名称

板絵著色杉戸絵 鶴図・芍薬図

2 員数

2 枚 4 面

3 種別

絵画

4 所在地

名古屋市千種区城山町 1 丁目 47 番地 相応寺

5 所有者

名古屋市千種区城山町 1 丁目 47 番地
相応寺 代表役員 前野 真哉

6 現状 (品質・形状・構造・大きさ・地積・由来・沿革など)

素材 板絵著色

法量 板絵部分 縦 200.2cm 横 76.0 cm

総高 縦 215.0 cm 総幅 88.5 cm

概要

相応寺（名古屋市千種区）本堂の杉戸絵である。相応寺は、寛永 19 年（1642）に尾張徳川家初代義直が、亡母相応院のために創立した寺で、本堂は寛永 20 年の建立とされる。当該の杉戸絵は西側廊下に位置し、南側に鶴図、北側に芍薬図の表裏となっている。外部環境の影響を受けやすい杉戸絵の性格上、全体的に擦れが多く、特に鶴図には絵具の剥落や欠失が多く見られるが、鶴図・芍薬図とも狩野派の画風が看取できる。背景を描いて奥行感を強調する表現はとらず、向かって右側の面の図様に重心を置く構図など、令和 6 年度に名古屋市指定文化財となった同寺本堂の杉戸絵に共通する絵画様式が認められる。本作品は 17 世紀障壁画の制作と受容のあり方を示す作品として、相応寺本堂杉戸絵の一連の

作例として後世に残すべき文化財であると考えられる。

保存状態

鶴図は向かって左側の面に 1 羽、右側の面に 2 羽が描かれているが、右側は 2 羽のうち首を曲げている鶴の身体の一部は大きく欠損しており、本来は絵具が載っていたはずの部分の板目が露出していることから、絵具が剥落した状態で長い年月が経過したものと考えられる。左側の鶴は胡粉の白色や頭頂部の赤い色も残り、尾羽や身体の一部にそった大小の羽の描き分けなどの細部も確認できるため、右側は戸を開けた際に常に表に晒される面であるという建築上の特性も状態の違いに影響した可能性がある。芍薬図は、右側の面に白色の花を、左側の面には桃色の花を、緑青で表された茎・葉とともに描いており、全体に表面の摩耗と褪色は見られるが、大きな欠損箇所はない。鶴図・芍薬図ともに背景のモチーフは描かれていないが、状態から見ても制作当初からの構図、表現であろう。鶴図の左面・芍薬図の左面に、七宝繫唐花六葉葵文の引き手金具が付く。一点の金具が別置されている。

制作時期

落款等はなく、制作時期や作者を明確に示す根拠史料は添っていないが、絵画様式から推測して、17 世紀の制作と考えられる。鶴図の、左から、地面に嘴を向ける鶴・左を向いて鳴く鶴・身体は右向きで左方向へ首をひねる鶴の三羽を組み合わせ描く例は、狩野探幽筆「松鶴柳猿図屏風」（大倉集古館所蔵）にもあり、芍薬図についても、白色の花の表現や無背景の右面にボリュームのある花群を配する構図が名古屋城対面所杉戸絵の芍薬図に共通する。また、狩野探幽一門の作とされる名古屋城上洛殿杉戸絵「花車図」にも、白色に朱を重ねて淡い桃色とする彩色の花弁の表現や、中心に細い花弁状の雄しべが盛りあがるような形の花を取り混ぜて芍薬のバリエーションを表す描き方など、本杉戸絵との表現・様式上の共通点が見いだせる。これらの例はいずれも 17 世紀前半の狩野派の作であることから推して、本杉戸絵も同時期の狩野派の作と考えられる。

伝来・備考

相応寺は浄土宗鎮西派の寺院で、寛永 19 年（1642）に尾張藩主徳川義直が、亡き母相応院のために創立した。もと名古屋市東区山口町にあったが、昭和 7 年（1932）に現在地に移建された。寛永 20 年（1643）であるとされる本堂は、「当地方の江戸時代初期における浄土宗本堂の発展を知る上で重要な遺構」「建中寺本堂と共に尾張徳川家の菩提寺としての建築的特色を知る上においても特筆すべき遺構」と評価されている（「相応寺本堂・鐘楼・総門・山門」愛知県史編さん

委員会『愛知県史 別編 文化財 1 建造物・史跡』平成 18 年)。

7 指定理由

本杉戸絵は、表現様式から 17 世紀狩野派の作として評価され、令和 6 年度に名古屋指定文化財となった杉戸絵（芙蓉図・花卉図・菊図）と一連の作と考えられる。欠失箇所が見られるものの、障壁画は、一面一面の作品としての価値のみならず、建築に付随する絵画総体として史料的意义をもつ。杉戸絵は障壁画の中でも特に経年劣化を免れず保存が難しい絵画作品であるが、近年、日本絵画史研究において、選択された画題や建築内での配置、大規模な画事に際して狩野派内でのどのような分担がなされたかなどを総合的に検討しようとする研究に進展があり（木下京子「フィラデルフィア美術館所蔵「花鳥人物図杉戸」と城郭御殿杉戸絵の画題に関する一考察」『待兼山論叢芸術篇』50 号 2016 年、松本直子「二条城二の丸御殿の内部装飾の全体構想について一廊下杉戸絵を中心に一」『鹿島美術財団年報』36 号 2018 年、石川県立歴史博物館編『御殿の美』2023 年ほか）、伝来過程において、仮に建物の移築・再建等で杉戸絵に入れ替わりなどが生じていたとしても、作品が保存されていれば、当初の状況を復元的に考察できる可能性があることが示されている。本杉戸絵は、尾張徳川家に深く関わる寺院に伝来しており、尾張藩および尾張徳川家と狩野派の画事との関連を示す史料として、後世に残すべき作品である。

【参考画像】



鶴図



芍薬図



(芍薬図部分)



参考：名古屋城対面所杉戸絵（部分）



参考：名古屋城対面所杉戸絵（部分）



(芍薬図部分)



参考：名古屋城上洛殿杉戸絵（部分）

図版出典：武田恒夫監修『重要文化財 名古屋城本丸御殿障壁画集』（名古屋城管理事務所、1990 年）

名古屋市指定文化財答申書

1 名称

享元絵巻

2 員数

1 巻

3 種別

絵画

4 所在地

名古屋市中区本丸 1 番 1 号 名古屋城総合事務所

5 所有者

名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号 名古屋市

6 現状 (品質・形状・構造・大きさ・地積・由来・沿革など)

素材 紙本著色

形状 卷子装 (太巻)

法量 縦 55.8×横 372.0 c m

概要

本町通を中心とした名古屋城下を描く画卷 (詞書は伴わない)。巻頭の広小路から、本町通の東西に立ち並ぶ社寺や芝居小屋、見世物小屋、相撲小屋、料理茶屋、遊郭などを順に描く。尾張藩家老を代々務めた石河家に伝来し、戦後名古屋城振興協会の所有となり、昭和 38 年 (1963)、同協会から名古屋城管理事務所 (当時) に寄贈された。現在、名古屋城総合事務所所蔵。石河家所蔵時期の箱蓋表貼紙に「享元絵巻」と記されており、尾張藩七代藩主徳川宗春 (1696～1764) の治世時 (享保 15 年・1730～元文 4 年・1739) の城下の賑わいを描く絵巻として知られてきた。類品が他になく、名古屋の文化史を伝える上で欠かせない作例であると同時に、四季の移ろいの中に場面を配する絵巻表現の伝統も引く作例として、日本絵画史上においても興味深い作例として位置付けられる。

保存状態

経年による軽微な折れはあるものの、現在は太巻装となっており、状態は安定し

ている。褪色部分はあるが、進行が懸念される大きな剥落や欠損はみられない。

制作時期

落款等はなく、制作時期や作者を明確に示す根拠史料は添っていない。本作品には、西小路・葛町・富士見の三遊郭が描かれている。三遊郭がすべて開業したのは享保 17 年（1732）で、元文元年（1736）には退去を命じられている。また芝居小屋の看板に記された「浄瑠璃太夫 宮古路豊後」は、享保 19 年（1734）に名古屋で、浄瑠璃「睦月連理椿」を上演し評判となった京都の浄瑠璃太夫、宮古路豊後（1660～1740）を指すと考えられる（小池富雄「享元絵巻を読み解く 尾張徳川家七代宗春の時代、名古屋の賑わいと景観」、林董一編『近世名古屋 享元絵巻の世界』所収、清文堂、2007 年）。こうした情報を勘案し、「享元絵巻」が描く景観年代は、享保 19 年（1734）から元文元年（1736）の間と考えられる。実在した茶屋などが描かれる一方で、店舗の位置関係などは正確ではなく、宗春の治世の賑わいを懐古的に描くものと推定されるが、モチーフの具体性から、さほど時代が下る作とも考えにくく、画風も考慮すると、制作年代は 18 世紀後半と見られる。

伝来・備考

旧箱蓋裏の貼紙に「男爵石河光昂」とあり、代々尾張藩家老を務めた石河家伝来と知られる。戦後名古屋城振興協会の所有となり、昭和 38 年（1963）、同協会から名古屋城管理事務所（当時）に寄贈された。蓋裏には墨書があり、描かれている場所やモチーフを列記した上で、「享保十六亥より元文辰春^が一書」とあることから、享保 16 年（1731）から元文元年（1736）の作と考えられていたようである。

7 指定理由

本作品には、社寺や遊郭などが具体的に描き込まれており、徳川宗春治世の名古屋城下の様子を知る上で欠かせない絵画史料である。展覧会にも度々出陳され（名古屋市博物館「名古屋 400 年のあゆみ」展、2010 年・徳川美術館「徳川宗春」展、2014 年ほか）、他に類例のない重要作品として認識・評価されている。名古屋市博物館では、ウェブサイト上で場面を詳細に熟覧できる画像も公開されており、既に市民にも広く親しまれている。都市の景観を描くという点では、洛中洛外図の系譜、また、桜や紅葉などの四季のモチーフが描き込まれているという点では、四季の移ろいの中に場面を展開させるやまと絵の表現方法が継承されている例と見ることができ、絵画史上も意義のある作品である。名古屋の文化史と深く関わる作品として後世に伝えるべき文化財であり、指定にふさわしい。

【参考画像】



(全図)

箱蓋表

(墨書貼紙)

「享元繪□(巻力)」

(名刺張付)

「從四位男爵 石河光昂」



箱蓋裏墨書

「繪記 西小路 新地 葛町 富士見原三町の遊所繁昌也 三味線 尺八 笛 琴の外勝行一統所々^亦師範軒を並ふ 其他遊所榮国寺前 橘丁 東懸所迄数ヶ所 十八ノ丑春 大須真福寺裏門明々鉄炮丁角より茶屋所建 其外水主町 天王崎門前 巾下 飴屋丁 綿屋丁等尔も出来 十六亥 橘丁裏^ニて歌舞伎取建 同九月頃より清寿院前など芝居始ルノ夫方追々出来 常芝居^ニ成リ 子丑両年間大方落成す 稻荷社内七寺 天道社内 赤塚神明、袋丁 小金薬師 橘丁 七面 愛宕 西小路 廣井八幡 不二見 葛丁 其外端々町々^ニ至迄浄留理或歌舞妓ノ角力興行 天王崎 尾頭丁 東杉 枇杷鷲 飴屋丁 巾下新道 此場所大かた相撲也 橘町 七面南角方下 大木戸迄両ヶ輪旅籠屋に成る 抑三所繁昌之始メ十七子春 十六ノ亥暮より昼敷所いたし 西小路^三浦屋 富士見原^ニ富士見屋 日の屋 家を建 歳旦 春立や 東^三富士見 西小路 作者不知 享保十六亥より元文辰春^亦一書」

名古屋市指定文化財答申書

1 名称

酒井家文書

2 員数

58 点

3 種別

古文書

4 所在地

名古屋市瑞穂区瑞穂通 1 丁目 27 番地の 1 名古屋市博物館

5 所有者

名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 1 号 名古屋市

6 現状（品質・形状・構造・大きさ・地積・由来・沿革など）

品質・形状・法量は別添内訳の通り。

三好町（現みよし市）所在の酒井家に伝来してきた古文書群の一部である。酒井家は、織田信長、信雄、豊臣秀吉、秀次、松平忠吉に仕えた坂井文助利貞（？～1608）を初代とする家である（後に酒井と改姓）。利貞は信長の下で道路整備などの土木事業を管轄しており、豊臣政権に移って以降は、利貞は道奉行としての職務の他、尾張・三河地域の鷹場の管理も担っていた。酒井家は江戸時代初期に尾張徳川家の家臣としては改易され、著名な眼科医に転身し、現在にいたっている。

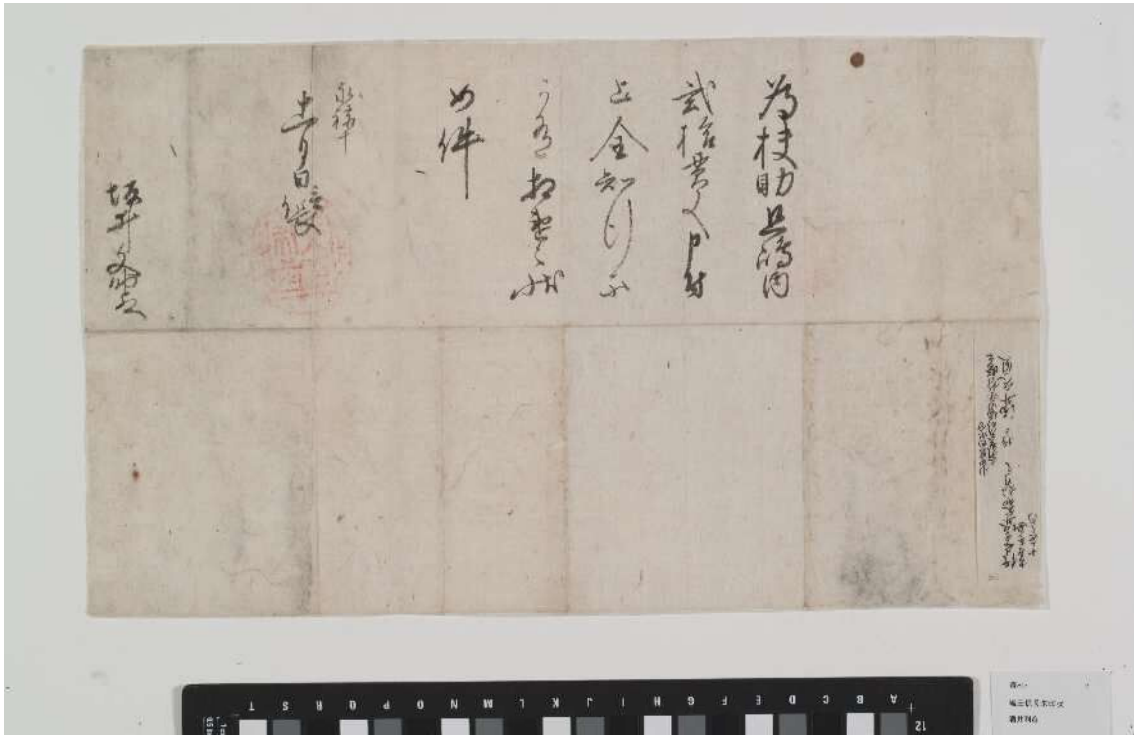
田崎哲郎編集『三好町酒井家文書目録』（三好町酒井家調査団、1996 年）によると、酒井家には約 2000 点の古文書群が伝来していたが、今回、名古屋市指定文化財の候補として検討しているのは、同目録で「Ⅰ－1 初期文書」に分類されている古文書のほぼ全てと、のちに酒井家が入手したと考えられている 4 点とからなる合計 58 点で、いずれも名古屋市に寄贈されたものである。古文書 1 点ごとの大きさはまちまちであるが、おおむね、30 センチ×50 センチほどで、古文書としては標準的な大きさである。

7 指定理由

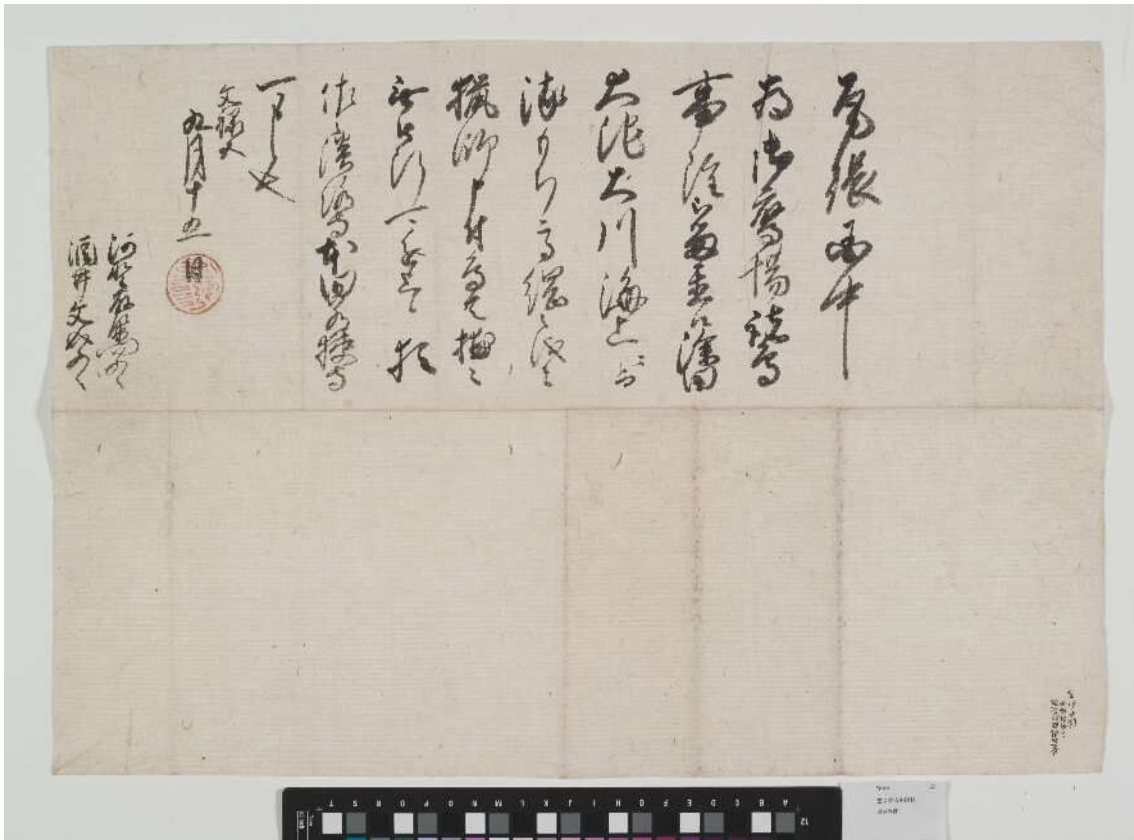
今回文化財指定を検討している酒井家文書 58 点は、初代利貞が拝領した文書を中心とした、室町時代後期から江戸時代中期 にわたる家伝文書である。すでに酒井利隆編集『坂井遺芳』（1937 年）、酒井利彦編集『新修坂井遺芳』（1999 年）などで、広く学界に紹介され、学術的な価値が認められてきた著名な史料群である。その大きな特徴は、歴代の尾張の支配者からの発給文書を まとまって伝えている点である。信長発給文書は 6 通、秀吉発給文書は 8 通あり、うち永禄 10 年（1567）11 月付の信長朱印状は、「天下布武」印の最初の使用例のひとつである。また、街道や堤防の整備指示といった土木事業関連文書は他に類例のないもので、織豊政権の具体的なインフラ整備施策の実態を知ることができる。今後の厳密な科学的分析をまつべき部分はあるかもしれないが、これまでのところ、信長・秀吉・家康など、著名な歴史的人物により発給された文書原本を含むとみることに特段の異論はない。従来は、名古屋市域外在住者の所蔵史料であるという理由により、名古屋市指定文化財とはなっていなかったが、名古屋市に寄贈され、そうした行政的な支障が消滅した現段階において、指定の障害となるような学術的な理由は見出しがたい。名古屋市博物館編集『豊臣秀吉文書集 一～八』（吉川弘文館）の発刊など、名古屋市は織田・豊臣期の歴史史料の研究拠点としての役割を果たすことがいっそう強く期待されている。酒井家文書の名古屋市への寄贈および文化財指定は、名古屋市の学術的な存在感をさらに高めるであろう。

なお、名古屋市に寄贈された酒井家文書には、新旧の『坂井遺芳』には含まれない兼松源兵衛書状など、信長・秀吉・家康文書よりもさらに希少というべき近世初頭の実務的な内容をもつ文書が含まれている。これらの文書を正確に読解するには、ひきつづきみよし市酒井家に所蔵されている史料との照合が必要不可欠である。すなわち名古屋市所蔵分の酒井家文書は、みよし市酒井家所蔵分の酒井家文書の一部であるという事実を強く念頭において、行政的な枠組みを越えた連携を強めるならば、なお一層、酒井家文書の学術的・文化的な価値は増すであろう。

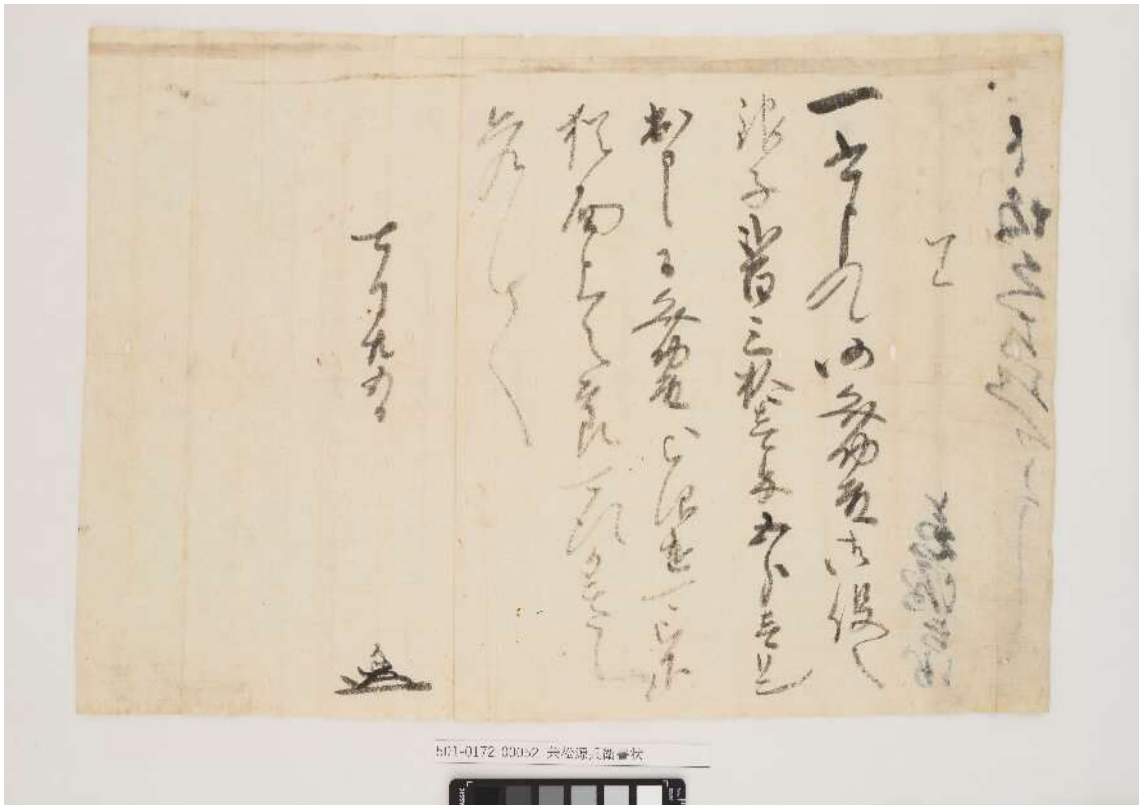
【参考画像】



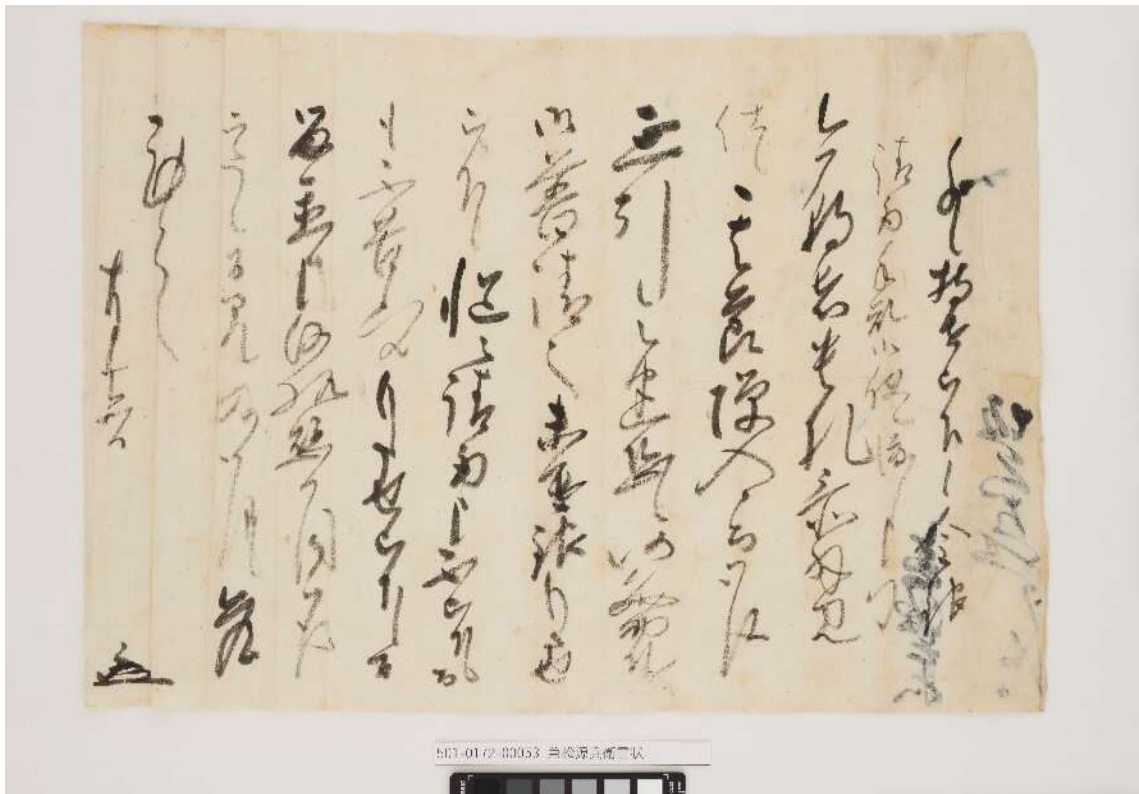
02 織田信長朱印状



22 豊臣秀吉朱印状



52 兼松源兵衛書状



53 兼松源兵衛書状

酒井家文書 内訳

番号	資料名	員数	時代	時代詳細	冒頭	宛所	品質形状	法量(cm)
1	織田信長判物	1通	室町時代後期	弘治元年(1555)12月28日	河尻与三郎分…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦24.2cm 横41.3cm 裏打ち(縦24.4cm 横41.5cm)
2	織田信長朱印状	1通	室町時代後期	永禄10年(1567)11月日付	為扶助旦島内…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦25.5cm 横42.8cm 裏打ち(縦25.9cm 横42.9cm)
3	織田信長朱印状	1通	安土時代	天正2年(1574)閏11月25日	尾張国中道之事…	篠岡八右衛門・坂井文助・河野藤三・山口太郎兵衛	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦29.4cm 横46.2cm
4	織田信長朱印状	1通	安土時代	天正3年(1575)10月8日	尾張国中在々所々…	河野藤三・山口太郎兵衛・酒井文助・篠岡八右衛門	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦30.0cm 横46.5cm
5	織田信長朱印状	1通	安土時代	天正4年(1576)10月29日	江州河南・新村…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】竪紙	縦29.7cm 横46.6cm
6	織田秀信書状	1通	安土桃山時代	10月4日	為見舞鷹二ツ…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦35.9cm 横51.9cm
7	織田信忠判物	1通	安土時代	天正4年(1576)2月日	尾張国中道之事…	篠岡八右衛門・坂井文助・河野藤三	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦29.4cm 横46.2cm
8	織田信忠判物	1通	安土時代	天正7年(1579)11月16日	濃州西方…	河野藤左衛門・坂井文助・篠岡八右衛門・山口太郎兵衛	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦29.7cm 横45.8cm
9	織田信雄判物	1通	桃山時代	天正10年(1582)7月24日	領知方堀邊分…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦37.5cm 横53.5cm
10	織田信雄判物	1通	桃山時代	天正11年(1583)12月14日	春日井原一円…	河野藤左衛門・坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦30.2cm 横47.5cm
11	織田信雄判物	1通	桃山時代	天正10年(1582)7月19日	国中道橋事…	山口太郎兵衛・河野藤左衛門・酒井文助・篠岡八右衛門	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦29.2cm 横46.0cm
12	織田信雄判物	1通	桃山時代	天正15年(1587)正月24日	堤可渡覚	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦29.7cm 横44.8cm
13	織田信雄判物	1通	桃山時代	(天正18年・1590) 正月28日	道之儀、以此書付…	河野藤左衛門・木村藤助・坂井文助・原又右衛門・伊藤又一・林三郎右衛門・川口弥七・山田七郎五郎	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦32.3cm 横50.0cm
14	織田信雄朱印状	1通	桃山時代	2月7日	堤之儀、恕先々…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦31.2cm 横49.5cm
15	織田信雄朱印状	1通	桃山時代	(天正13年・1585) 2月20日	大野井かに江ノ郷内…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】竪紙	縦30.2cm 横47.2cm 裏打ち(縦30.4cm 横47.4cm)
16	織田信雄判物	1通	桃山時代	8月3日	庄内堤之儀…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦32.3cm 横50.2cm
17	織田信雄書状	1通	桃山時代	(天正12年・1584) 10月23日	小山之取出…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦13.9cm 横42.6cm 表装幅60.5cm 表装縦125.0cm 軸長64.8cm
18	織田信雄(常真)書状	1通	桃山時代	(天正19年・1591) 11月10日	為見舞遠路飛脚…	河野藤左衛門尉・坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦32.7cm 横51.1cm
19	羽柴秀吉書状	1通	桃山時代	12月14日付	太田清三屋敷…	篠岡八右衛門・高野藤三・坂井文介・山口	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦24.9cm 横41.2cm 表装幅42.9cm 表装縦105.3cm 軸長47.3cm
20	豊臣秀吉朱印状	1通	桃山時代	文禄2年(1593)後9月19日	尾張国津島之内…	河野藤三・坂井文介	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦46.3cm 横67.0cm
21	豊臣秀吉朱印状	1通	桃山時代	文禄4年(1595)8月8日	尾張国海東郡…	酒井文介	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦46.8cm 横66.5cm
22	豊臣秀吉朱印状	1通	桃山時代	文禄5年(1596)9月15日	尾張国中為御鷹場…	河野藤左衛門尉・酒井文介	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦46.8cm 横67.0cm
23	豊臣秀吉朱印状	1通	桃山時代	(天正19年・1591) 極月6日	坂井分介…	佐々孫介・本田権右衛門尉	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦46.7cm 横66.8cm

番号	資料名	員数	時代	時代詳細	冒頭	宛所	品質形状	法量(cm)
2 4	豊臣秀吉朱印状	1 通	桃山時代	(天正19年・1591) 12月26日	綱鳥如目録到来…	河野藤左衛門尉・酒井文介	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦46.3cm 横67.0cm
2 5	豊臣秀吉朱印状	1 通	桃山時代	(天正19年・1591) 11月22日	綱鳥・同股毛鴨…	河野藤左衛門尉・酒井文介	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦46.5cm 横67.2cm
2 6	豊臣秀次朱印状	1 通	桃山時代	桃山時代 正月13日付	鷹五到来…	坂井豊介	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦46.2cm 横65.9cm
2 7	三好吉房（常閑）知行目録	1 通	桃山時代	文禄3年(1594)3月19日	知行方目録	坂井伊三郎	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦36.2cm 横52.5cm
2 8	三好吉房（常閑）黒印状	1 通	桃山時代	文禄3年(1594)3月13日	為扶助百石宛行畢…	堺伊三郎	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦36.6cm 横53.1cm
2 9	三浦堯秀判物	1 通	室町時代後期	弘治年間 9月朔日	為合力丹羽新十郎分…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦25.6cm 横42.5cm
3 0	田中吉政書状	1 通	桃山時代	天正18年(1590)8月晦日	当知行分北島之郷…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦32.5cm 横50.3cm
3 1	福島正則知行目録	1 通	桃山時代	慶長6(1601)年11月7日	安芸国之内を以健…	坂井猪三郎	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦31.6cm 横51.7cm
3 2	織田信雄奉行人連署状	1 通	桃山時代	天正11年(1583)8月19日	日比野ノ内前野之郷…	坂井隼人	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦29.9cm 横46.7cm
3 3	織田信雄奉行人連署状	1 通	桃山時代	天正11年(1583)8月29日	ひら野郷、為御扶助…	河野藤左衛門・坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦30.1cm 横47.3cm
3 4	徳川家康・前田利家連署過書	1 通	桃山時代	天正20年(1592)7月23日	坂井文助人数拾人…	路地御奉行	【品質】紙本墨書、【形状】切紙	縦36.4cm 横18.0cm
3 5	徳川家康・前田利家連署過書	1 通	桃山時代	天正20年(1592)7月23日	坂井文助人数廿式人…	路地御奉行	【品質】紙本墨書、【形状】切紙	縦36.3cm 横18.0cm
3 6	松平忠吉朱印状	1 通	桃山時代	慶長6年(1601)5月朔日	於尾州海東郡中…	酒井文助	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦45.6cm 横64.9cm
3 7	徳川義利黒印状	1 通	江戸時代前期	元和6年(1620)9月朔日	尾州海東郡中…	坂井文助	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦42.1cm 横58.1cm
3 8	徳川義利黒印状	1 通	江戸時代前期	元和6年(1620)9月朔日	濃州可児郡池田…	坂井久三郎	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦42.0cm 横57.7cm
3 9	徳川義直知行目録	1 通	江戸時代前期	寛永15年(1638)7月26日	知行分之事	酒井久左衛門	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦41.2cm 横57.9cm
4 0	徳川義直知行目録	1 通	江戸時代前期	正保3年(1646)11月5日	知行分之事	酒井久左衛門	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦41.2cm 横56.4cm
4 1	織田信雄判物	1 通	桃山時代	(天正18年・1590) 正月28日	道之覚	—	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦32.2cm 横50.1cm
4 2	織田信雄判物	1 通	桃山時代	(天正18年・1590) 2月朔日	道可築在々	在所給人中	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦31.9cm 横49.6cm
4 3	織田信長書状	1 幅	室町時代後期	(元亀3年・1572)10月5日	今度以赤澤…	法性院（武田信玄）	【品質】紙本墨書、【形状】掛幅装	縦16.5cm 横72.2cm 裏打ち(縦103.0cm 横74.3cm) 軸長79.1cm
4 4	羽柴秀吉書状	1 幅	桃山時代	(天正12年・1584)3月23日	(前欠) 将又峯城…	森武口(蔵)	【品質】紙本墨書、【形状】もと折紙、掛幅装	縦14.9cm 横48.5cm 表装幅51.4cm 表装縦102.0cm 軸長57.5cm
4 5	千利休書状	1 幅	桃山時代	桃山時代 卯月23日	今度者種々御懇…	—	【品質】紙本墨書、【形状】折紙、掛幅装	縦28.6cm 横40.2cm 表装縦103.5cm 軸長47.5cm
4 6	徳川家康書状	1 通	桃山時代	(文禄3年ヵ・1594)5月29日	御扶持之切手…	福島左衛門大夫	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦36.7cm 横52.5cm
4 7	結城秀康書状	1 通	江戸時代前期	(慶長11年・1606)7月朔日	今度者無御出候間…	酒井久三郎	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙	縦31.3cm 横52.6cm
4 8	小堀政一（遠州）書状	1 幅	江戸時代前期	江戸時代前期 卯月17日	一昨日我等やとへ…	明眼院	【品質】紙本墨書、【形状】豎紙、掛幅装	縦30.3cm 横54.2cm 表装幅55.8cm 表装縦113.0cm 軸長62.5cm
4 9	江戸幕府老中奉書	1 通	江戸時代前期	(寛文12年・1672) 4月26日	御札令拝見候…	松平摂津守（義行）	【品質】紙本墨書、【形状】折紙	縦40.5cm 横56.2cm

別添

番号	資料名	員数	時代	時代詳細	冒頭	宛所	品質形状	法量(cm)
5 0	江戸幕府老中奉書	1 通	江戸時代 前期	(寛文12年・ 1672) 5月22日	御札令拝見候…	松平摂津守（義行）	【品質】紙本墨 書、【形状】折紙	縦40.5cm 横56.3cm
5 1	江戸幕府老中奉書	1 通	江戸時代 前期	(延宝8年・1680)4 月28日	御札令拝見候…	松平摂津守（義行）	【品質】紙本墨 書、【形状】折紙	縦40.4cm 横55.6cm
5 2	兼松源兵衛書状	1 通	江戸時代 前期	(寛永元年・1624)7 月25日	一書申入候、仍文 助…	坂井久左衛門	【品質】紙本墨 書、【形状】折紙	縦31.4cm 横44.4cm
5 3	兼松源兵衛書状	1 通	江戸時代 前期	(寛永元年・ 1624)10月12日	文助殿御普請之未 進金事…	坂井久左衛門	【品質】紙本墨 書、【形状】折紙	縦31.2cm 横43.3cm
5 4	兼松源兵衛金子請 取状	1 通	江戸時代 前期	(寛永元年・ 1624)10月12日	今朝者黄札忝拝見 …	坂井久左衛門	【品質】紙本墨 書、【形状】折紙	縦32.0cm 横20.3cm
5 5	御普請銀内訳	1 通	江戸時代 前期	(寛永元年・ 1624)	一、高三百八拾石 …	—	【品質】紙本墨 書、【形状】縦紙	縦31.7cm 横46.1cm
5 6	御普請組之覚	1 通	江戸時代 前期	(寛永元年・ 1624)	普請組之覚	—	【品質】紙本墨 書、【形状】縦紙	縦31.9cm 横44.8cm
5 7	御天守内御本丸石 之覚	1 通	江戸時代 前期	(寛永元年・ 1624)	御天守内御本丸石 之覚	—	【品質】紙本墨 書、【形状】縦紙	縦31.7cm 横45.5cm
5 8	加藤（橋）千蔭和 歌詠草	1 幅	江戸時代 中期		六そちあまり…	—	【品質】紙本墨 書、【形状】豎 紙、掛幅装	縦31.9cm 横43.9cm 表装縦91.0cm 軸長 52.7cm

参考 包紙類

18枚

以上 5 8 点